

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	高校生でもできちゃった！フードネーション活動のススメ☆	那覇市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	～学生・大人・地域の協働～ MUG ムグフードプロジェクト		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	英語名：VONS（Volunteer by Okinawa Next generation and Students） 日本語名： 沖縄次世代に繋ぐ学生ボランティア		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数（公開）	9名		
代表者（公開）	平敷 雅		
メンバー（公開）	屋嘉部 方来 上原 仙子	大浅田 均 田中 洋人	平敷 成美 村中 瑞乃

#### **【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2020\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

〈応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください〉

(1) 「フードドネーション」の認知度 UP！！

沖縄県は離婚率、ひとり親世帯率共に全国と比べても非常に高いと言われ、特に、「子供の貧困実態調査」によると沖縄県の子供の貧困率は29.9%と、全国の約2倍、3人に一人が困窮状態にあるという結果が出ています。このような状況下で発生した新型コロナの社会的混乱はさらに追い打ちをかけ、沖縄の生活困窮世帯が増加しました。一つの解決策として「フードドネーション」を提案します。これまでに6回ほど活動を行っていますが、まだまだ認知度が低いため、認知度を高め、より多くの人々から食糧の寄付を受けられるようにすることが課題です。

(2) 「フードドネーション」の地域での定着化

新型コロナ以前にも社会や地域には困窮家庭は存在していましたが、コロナ以降でよりその実態が顕在化しました。「コロナの今だからフードドネーションを通して支援を行う」のではなく、「フードドネーション文化を地域に定着させ、異常時でなくとも困窮者への支援が常に行われるような地域体制を確立する」ことが今後の課題です。

(3) 学生と大人と地域の結び付きを強化し、学生のフードドネーションが実行しやすい環境づくりを！！

高校3年で行った留学先のアメリカで、現地の高校生がたった一人、もしくは4-5人で自主的にフードドネーションを行っているのをよく目にしました。このように日本においても高校生や学生がもっと気軽にフードドネーションボランティアが企画しやすく、実行に移しやすい地域環境を整えることが重要だと考えます。なぜなら、このようなボランティア活動は「貧困問題」など、学生らの社会問題に対する関心を刺激し、次世代を担う学生たちがより良い社会の解決策を導き出す一つのきっかけになると思うからです。

〈この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・〉

〈「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます〉

〈よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です〉

〈解決アイデア〉：

**MUG ムグフードプロジェクト**

☆フードドネーション活動の内容☆

・高校生、学生と大人サポーター、地域の協働による生活困窮世帯のためのフードドネーションボランティア

☆概要☆

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

・地域の住民から家にある食糧ストックの中から一部寄付を呼びかけ、ボランティア学生はそれらを回収し、困窮世帯へ再分配してくれる専門の団体へ食糧品を受け渡す仲介役をする。

また、このようなフードドネーション活動は**食品ロスの削減**にも繋がる！！

- ① 食糧品の寄付を受取る
- ② 受取った食糧品の賞味期限をチェックし、賞味期限切れ、1か月以内、それ以外で分ける
- ③ 食糧品のパッケージや表面をアルコール消毒でふき取る
- ④ 食糧品を種類別で仕分け、各ダンボールに入れていく→個数を正の字でチェックする（お米、レトルト食品、缶詰、乾麺、インスタント麺、調味料、お菓子etc…）
- ⑤ 集まった食糧品を困窮世帯に分配してくれる社会福祉団体にその日のうちに全て寄贈する



食糧品の受け取りの様子



高校生ボランティアによる賞味期限チェックとアルコール消毒の様子

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）



食糧品を種類別に分け、各ダンボールへ仕分けしている様子



ボランティア学生達から困窮世帯へ食料の分配を行う福祉団体への贈呈式の様子

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

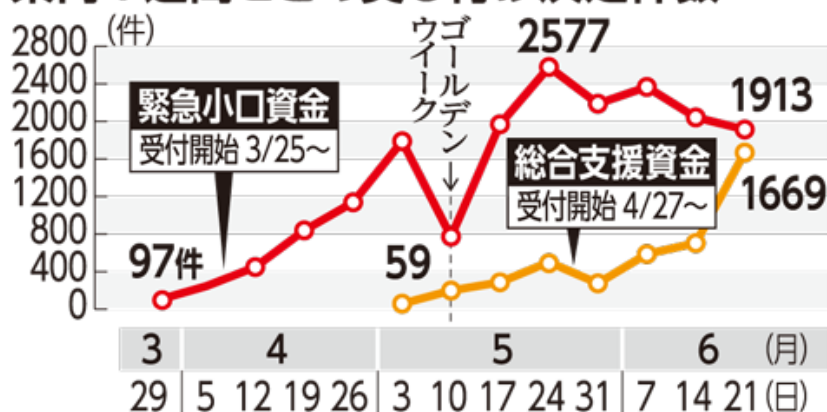
このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

#### 【基礎データ①：県内のコロナ禍での「緊急小口資金」急増のグラフ】

#### 県内 1 週間ごとの貸し付け決定件数



緊急小口資金の受付が開始された3月時点で97件あった決定件数は多少の増減はあるが明らかにグラフが右肩上がり貸付件数が爆発的に増加している。特に5月4週目はピークを迎えており、4月27日から受付が開始された総合支援資金も合わせると最終的には3582件もの申請があり、コロナ禍の影響を受けた生活困窮世帯の爆発的な増加が読み取れる。（出典：琉球新報デジタル 2020年6月30日 記事より）

#### 【基礎データ②：コロナ以前の生活保護率の推移】

年度別保護率（%）の推移（年度平均）

	平成 20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
那覇市	28.54	30.17	32.20	33.55	35.08	35.92	36.68	37.84	38.38	38.83	39.53
沖縄県	17.44	18.90	20.53	21.68	22.82	23.53	24.01	24.59	24.96	25.12	25.30
全 国	12.5	14.0	15.2	16.2	16.8	17.0	17.1	17.1	16.9	16.8	16.6

2020年（令和2年）の1月中旬頃より日本での感染例が確認され、国内で感染が拡大し、経済停滞が起こった結果、多くの失業者及び無収入者の増加が社会問題となり、国民の関心が注がれることとなった。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

しかし、新型コロナ以前である平成の過去10年間の生活保護率の推移を見てみると全国、沖縄、那覇市ともに当初より大幅に増加している。那覇市の増加率に関しては、全国、沖縄県の平均を大きく上回っており、新型コロナ拡大以前から生活困窮世帯の年々増加傾向だったことがわかる。

このようなことから、公的な立場からの支援の必要性はもちろん、地域のコミュニティをうまく活用して市民活動の立場からも地域の困窮世帯を支援していけるような幅広い支援の策を増やしていくことが不可欠であると考え。そのような意味で誰もが気軽に支援に協力できる「フードドネーション」を地域で定着させることは困窮者を支援する方法の選択肢が広がる重要な機会になりえると思った。

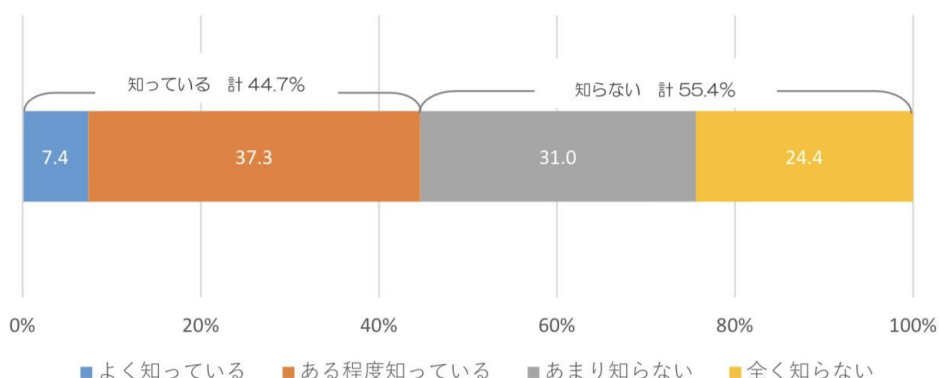
（データ出典：那覇市の福祉公式ホームページより [5 \(city.naha.okinawa.jp\)](http://city.naha.okinawa.jp)）

### 【基礎データ③：日本のフードバンク活動の認知度について】

・令和2年1月に全国の満18歳以上の男女3000人に対し、インターネットで行われた調査結果  
(消費者庁消費者教育推進課による報告書より抜粋)

図6 フードバンク活動の認知度

(N=3,000)



（データ出典：[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/efforts/pdf/effort\\_200424\\_0001.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/pdf/effort_200424_0001.pdf)）

データより、フードバンク（品質に問題はないが市場で流通できなくなった食品を企業から寄付を受け生活困窮者などに配給する活動及びその活動を行う団体 **\*フードドネーションで回収した食糧品の贈呈先の一つ！！**）の認知度は知っている人の割合が5割にも満たず、知らない人の割合が半数以上を占めている。

社会全体を巻き込んでより多くの人々から食糧寄付の支援を受けるには、コツコツと食糧寄付活動の展開を通して「フードドネーション」「フードバンク」の認知度を高めていくことがキー！！

## 2. アイデアの説明（公開）

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。


<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきま>

☆ヒト：活動当日までの学生・大人・地域それぞれの大まかな役割☆

- ① **学生**：ボランティアの日時の提案、活動場所の企画
- ② **大人・学生**：①の提案の実行に向けた現実的な話し合いとアドバイス  
→開催日時、活動場所の仮決定
- ③ **学生・大人・ショッピングセンター**：②で決定した活動先との交渉  
→学生自身で活動の趣旨、熱意を伝え、大人は学生の交渉をサポートする
- ④ **学生・大人**：日時、開催場所決定後、フードドネーション当日の宣伝ポスターを作成  
→完成したポスターをショッピングセンター内、地域のお店での掲示を依頼  
→SNS やマスメディアを使った広告活動
- ⑤ **学生・大人・ショッピングセンター**：事前受付依頼及び実施
- ⑥ **学生**：当日ボランティアに参加してくれる学生を募集
- ⑦ **学生・大人**：当日までにミーティングを重ねる♪

☆モノとカネ☆

\*初回から第4回目までのフードドネーション活動が認められたため、第5、6回目では那覇市からの助成事業である「令和2年度新型コロナウイルス感染症対応市民活動チャレンジ助成事業」からの助成金を得て活動することができました。



しかし！！  
今回は前資金がなかった初回での活動の際に高校生がどのようにフードドネーションに必要な道具を集めたのかを紹介します



??? 資金がない高校生がフードネーションボランティアを開催する方法は???

**→Answer: 大人の力をかりる!!!**

どうのことかという、第一回目は  
ショッピングセンターや地域の大人の方から必要なモノを提供していただけるように  
頼みました!! 😊

☆具体的な例～第一回目の実例～☆

- ・ 作業用のビニール手袋 → 那覇市社会福祉協議会からの提供
- ・ 消毒用アルコール・キッチンペーパー → 地域の大人サポーターからの提供  
（\* 第三回の活動の際、県内の泡盛製造企業から消毒用アルコールの提供がありました）
- ・ 作業用テーブル・仕分けようダンボール → ショッピングセンターからの提供



学生によるショッピングセンターとの交渉の様子